倒木事故を防ぐ安全対策を急げ

産後ドゥーラの存在を周知せよ

術活動及びスポーツ活動の応援 生文部長 調布市若者の文化芸 れる人を救う制度改正や工夫を。

ツ振興課が連携し支援から漏

内関係部署等と連携を図り、報に関する条例の趣旨を踏まえ庁

平野

充

公

明

党

樹木の安全管理は法令にのっと 生じた事故事例が生じないよう

環境部長 引き続き、これまで べき時代に入っている。対策は。

するなど、使いやすい制度とな

6年度に1日の利用上限を撤廃 通じた積極的な周知に努める。

るよう適宜見直しを図っている。

子どものスポーツや芸術活

が主導し無事故対策を講じる

私有地の樹木についても行

で立ち木の倒木事故は想定され 故があった。線路以外でも市内

の掲載方法を工夫し、引き続き

報を届けられるよう、

市HP等

必要とされる方に情

引き続き関係部署が連携し基金 奨金制度の在り方や拡充を検討。 内関係部署等と連携を図り、

化芸術活動への支援に取り組む の活用含め市民のスポーツや文

◆このほか、東部地域のまちづ

くりについて質問しました。

ゆりかご面接など様々な機会を

7年8月、京王線で倒木事

喚起を図り、より効果的な対策 った対応及び所有者等への注意

動の大会出場費用の支援につい

ついて他自治体の動向注視。

産後ドゥーラには産褥期の

(3)

利用料金や補助額等の明確な周 心を受け止める傾聴支援がある。 不安定な母親に寄り添う伴走や

拠に、経済的に恵まれない子ど

ツ活動の応援に関する条例を根 若者の文化芸術活動及びスポー から漏れることがある。調布市 て所管課の連携が取られず支援

もたちを支援できる子ども・若

者基金の活用含め教育部

と費用助成の拡充を検討せよ。

多摩川の水害対策の現状と

今後につい



大野 祐司 (自民党新政会)

19号)から6年が経過。染地地 備を実施。狛江市根川公園にお 水は免れるとのこと。早期対策 日本台風と同規模の大雨でも浸 予定。施設稼働で、令和元年東 ける定置式大型ポンプ施設は計 作対応や可搬式排水ポンプの配 WEB監視カメラ、フラップゲ 雨水幹線に水位計、流向流速計、 として、これまで多摩川に注ぐ 区では内水氾濫発生。浸水対策 から約3年遅れの13年度稼働 トの設置、排水樋管の遠隔操 た令和元年東日本台風 調布で大きな被害をもたら フ年5月にポンプ施設整 (台風

都整部長 国は整備計画変更に 現状と多摩川水系河川整備計画 得られたと認識。事業主体の狛 の概要について市の見解は。 江市と密に連携し施設整備を着 実に進め、浸水対策を推進する。 組状況等説明し、 備に向け市民説明会を開催。 調布市域の多摩川の堤防の おおむね理解

堤防強化対策は必要不可欠と認 域の一部区間の堤防は、標準的 向け検討を進めている。調布市 向けて国と協議していく。 さ上げ拡幅を行うとされている。 が不足と位置づけられ、今後か な断面形状に対し高さまたは幅 堤防改修工事の早期実現に

> 設備。この機能の確保について 国の方針は。 ヘアクセスするための重要な 多摩川3丁目の陸閘は多摩

> > 若者の応援につい

け国と連携図り、市域の堤防改民の安全安心と利便性確保に向修工事の状況勘案しながら、市 全性向上の観点から2か所の陸都整部長 国からは洪水時の安 修に向けた協議を継続的に推進。 間を廃止する方針案が示されて いる。市は多摩川全体の堤防改 動及びスポーツ活動の応援に関 実等の環境整備をすることが必 する条例」には、若者の意見を 反映する仕組みや活動場所の充

「調布市若者の文化芸術活



平常時の陸閘(左)と 増水想定時の陸閘(右)

取組は。

要と記されている。市の現状の

演奏や読売巨人軍調布市フェス 生文部長 調布国際音楽祭での

ンティアを募集しても、若者に は情報が入りにくいという課題 き続き若者に届く情報発信に努 タでの東京外国語大学チアリー 、若者の活動の場を創出。引ィング部パフォーマンス実施 市や地域のイベントでボラ 活動の場の充実に取り組む。

> て 党 解決につながると思うが考えは。 とが重要。先行自治体の導入目 策の実情に即した取組とするこ 継続的な財政負担等課題。各施 行経部長 さと納税減収分に対応でき課題 地域ポイント事業は 課題等見極める観点

> > 一般質問の要旨」の

印の用語解説です

語

の

地域ポイントについ 明 的や手法、

松野

英夫

公

若者のニーズに合った情報発信 でいる。各種イベントで地域と バンクを設置し課題に取り組ん がある。愛知県新城市では人材 調布基地跡地留保地の活用につ
◆このほか、目の健康について、 も踏まえ、引き続き調査、 いて質問しました。

検討。

う場のこと。認知症の人の地域

専門職等の誰もが参加でき、集 認知症の人と家族・地域住民 認知症カフェ

との交流を支援したり、介護す

る家族が悩みを共有することで

心理的な負担が軽減するなどの

若者の文化芸術活動及び スポーツ活動を応援

園の南側)、財務省が所管する

ムの南東側、

都立武蔵野の森公

敷地面積約6ヘクタールの国有

西町に位置し(味の素スタジア

調布基地跡地留保地

効果がある。

地。

市は、平成20年に「調布基

降、土地利用について継続的に

地跡地利用計画」を策定して以

FC東京と連携した取組として 検討してきた中、7年8月に、

税返礼品としポイントで調布花 火有料席を購入できれば、 まえ、大学等と連携し情報発信 を整備。引き続き条例の趣旨踏 設。スポーツ分野では調布市ス ちょうふアートサポーターズ創 団が既存組織を再編し2年度に 布市文化・コミュニティ振興財 生文部長 ながると思うが市の考えは。 ができれば、若者の応援へとつ ーツ協会がボランティア制度 地域ポイントをふるさと納 文化芸術分野では調 ふる

調布基地跡地留保地活用のプロセス透明化を

きょうだい児の育ちに支援を

安子(れいわネット・にじいろの会)

する基本条例に、まちづくりは問 自治の理念と市政運営に関 市議会及び市長が情報を

討・調整状況等の考慮や、財務 **行経部長** FC東京における検 共有皆無。庁内でも極秘で進め アムでの発表直前まで議会への た。なぜ市民不在で検討進め市 への報告も後回しにしたのか。 留保地活用は味の素スタジ

7年8月7日京王線線路脇

樹木の倒木事故現場

り進めるとある。市長の認識は、 共有した上で、参加と協働によ 市民への情報発信、共有が重要 透明性確保や市民との信頼関係 基づくまちづくりを推進。 参加と協働の前提となる

緒に考え進めたい 気を配る必要もあり難しい案件 要なパートナーとの協働事業が るかどうか以前の問題。配慮必 め、市民の意見伺い、これまで もりは全くない。秘匿性強く、 市長 市民との関係や情報共有 長はどう整合性を図ったのか。 市民に受け入れられるのか。市 は民主主義の根幹でメリットあ 性図ると明記。プロセスの共有 な対応に留意する必要があった。 情報の取扱いの確認含め、慎重 の進め方についても説明し、 市民からの批判は謙虚に受け止 に関する基本的姿勢を変えたつ 現基本計画でも市政の透明

(左)と

市の基地跡地留保地利用計画 F C東京の提案(右)

障害のある子どもの兄弟姉妹 きょうだい児

支援の必要性記載されて 具体策進んでいない。 題の認識は②障害者総合: い児の育ちを支える取組求める。 複雑な感情と葛藤するきょうだ きょうだい児につい 人知れず 計画に で ① 課 いるが

考え方」を公表。

よる施設整備に関する基本的な

「調布基地跡地留保地の活用に

樋管(ひかん)

題が内面的で把握が難し 子ども、福祉、教育、民間連携 不安を感じることもあるが、課 子の最善の利益考慮 ①成長過程で孤独や ②支援重要と認識。 じ支援。 り をトンネルのように通り抜ける 排水路や支川が堤防を横断して 堤防に切れ目を入れる形で通路 川へ流れ込む場合に、堤防の中 が設けられた門。歩行者等は堤 ためのコンクリートの水路のこ (りくこう)

福祉参事

子生参事

身の安定と産後の身体の回復 産前産後の母親に寄り添い、心 防を横断可能。増水時には閉鎖 され堤防の役割を果たす。 産後ドゥーラ

の適応をサポートする専門家の 赤ちゃんの育児や新しい生活へ **座褥(さんじょく)** 期

約6~8週間の期間をいう。 出産後、身体が回復するまでの 0)

●「年」及び「年度」については「令和」を表記していません。